

2 研究の実際

(1) 文献等による研究

ア 主権者教育の取組の方向性について

文部科学省は、『主権者教育の推進に関する検討チーム最終まとめ』⁽¹⁾の中で、今後の主権者教育推進の取組の方向性について次のように述べています（下線部は本研究による）。

次期学習指導要領改訂について検討を行う中央教育審議会において、主体的な社会参画に必要な力を実践的に育む高等学校の新科目「公共（仮称）」の検討を進める。さらに、同審議会で議論されている「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」のアクティブ・ラーニングの三つの視点に立って学び全体を改善することは、先に述べた「社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養う」という主権者教育の目的にも資するものであり、その一層の推進を図ることが期待される。加えて、主権者教育は、主権者として求められる能力を育むだけでなく、地域への愛着や誇りを持ち、ふるさとに根付く子供たちを育てるなど、地域の振興・創生の観点からも重要である。

主権者教育を行うことで生徒が身に付けるべき資質・能力が分かります。また、地域への愛着や誇りを持たせることも重要になります。

イ 高等学校に課された責務について

日本学術会議は、「提言『18 歳を市民に－市民性の涵養をめざす高等学校公民科の改革－』」⁽²⁾の中で、高等学校が高校生を市民として社会に送り出す責務を担うことについて、次のように述べています（下線部は本研究による）。

18 歳選挙権の成立によって、高校 3 年生が有権者となる。18 歳で選挙権を与えるということは、18 歳になれば、政治に参加する市民として社会の中に位置づけることを意味する。このことは、これまでは受験学力の涵養に集中しがちであった高校教育の役割に、再定義を迫るものである。つまり、高校生に政治教育を積極的に施し、彼ら・彼女らが大人の市民へと成熟してゆくことを助ける役割が、高校教育に強く求められるようになる。

（中略）市民から選ばれた代表者が議会で法律や予算を決定する制度下では、選挙が政治参加のもっとも重要な手段であることは言うまでもない。市民の一人一人が、政治的な選択に関する成熟した思考力と判断力を持ち、選挙を通じて権力をみずから動かすことで、民主政治はまっとうに機能するのである。単に政治制度に関する概括的な知識を得るだけではなく、そうした能力を集中的に育てる基礎として、高校の公民科教育（あるいは地理歴史科教育も加えて）が果たす役割は重要である。

主権者教育は高等学校だけで取り組むべきことではないと考えますが、生徒の中に有権者が存する点で他の校種とは異なっています。小・中学校での教育を踏まえ、生徒が大人の市民へと成熟する手助けをする役割が高等学校に求められています。

ウ 新必修修科目「公共（仮称）」で育む資質・能力について

中央教育審議会の「社会・地理歴史・公民ワーキンググループ」⁽³⁾は、次期学習指導要領で設置される予定の新必修修科目「公共（仮称）」で育む資質・能力について、以下のように目標を整理しています（下線部は本研究による）。

- 1 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 2 現代の諸課題について、事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて構想したりする力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。
- 3 人間と社会の在り方に関わる課題について、よりよい社会の実現のために主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚等を深めるようにする。

この科目で育むべき資質・能力は主権者教育の目的にも資するものでもあるので、次期学習指導要領が実施される前からこのことを念頭に置いて授業を展開する必要があると考えます。本授業では、特に下線部を重視しています。

(2) 実態調査

主権者教育に関する授業を行う前に主権者としての意識についての調査を行いました（資料 1）。

【 国政について 】 1 国の政治に興味がありますか？ 【 ①ある ②少しある ③あまりない ④ない 】 2 1で答えた番号の理由を書いてください。 3 国の政治についてのニュースは、どのような手段を使って知りますか？（複数回答可） 【 ①テレビ ②インターネット ③新聞 ④その他（ ） 】 4 国の政治に関して、最近気になるニュースを挙げてください。（複数回答可） 【 地方公共団体（地方自治体）の政治について 】 5 自分が住んでいる自治体の政治について興味がありますか？ 【 ①ある ②少しある ③あまりない ④ない 】 6 5で答えた番号の理由を書いてください。 7 自分が住んでいる自治体の政治についてのニュースは、どのような手段を使って知りますか？（複数回答可） 【 ①テレビ ②インターネット ③新聞 ④その他（ ） 】	8 自分が住んでいる自治体の政治に関して、最近気になるニュースを挙げてください。（複数回答可） 9 現在、あなたが住んでいる自治体についてもっと詳しくするために、あなたはどの視点から考えますか？次の、①観光、②交通、③教育、④雇用の4つの視点で考えたときに、あなたが興味のある視点から順に番号で並べてください。 【 （ ） → （ ） → （ ） → （ ） 】 【 選挙権について 】 10 選挙権が与えられたら投票に行こうと思いますか？ 【 ①行く ②行かない ③分らない 】 11 10で答えた番号の理由を書いてください。
--	--

資料 1 主権者としての意識についての質問紙

質問紙のダウンロードはここをクリック

意識調査の結果は次のとおりです。

国の政治に「興味がある」「少し興味がある」と答えた生徒は合わせて 15 名（39.4%）でした。また、自分が住んでいる自治体の政治に「興味がある」と答えた生徒は 0 名で、「少し興味がある」と答えた生徒は 8 名（21.1%）でした。一方、選挙権が与えられたら投票に行くと答えた生徒は半数程度という結果が出ました。「投票に行く」と答えた理由として、「自分の意思を表明したいから」「中学校の公民の授業を受けて、その時から選挙に行こうと決めている」という意見がありました。しかし、中には「行かなければならないと思うから」や「行かないよりはいいと思うから」など明確な目的を持っていないと考えられる理由も見られました（表 1）。

表 1 主権者としての意識についての調査結果

国の政治に興味がありますか？	ある	少しある	あまりない	ない	計	単位
	1	14	17	6	38	人
	2.6	36.8	44.7	15.8	100	%

自分が住んでいる自治体の政治に興味がありますか？	ある	少しある	あまりない	ない	計	単位
	0	8	18	12	38	人
	0.0	21.1	47.4	31.6	100	%

選挙権が与えられたら投票に行こうと思いますか？	行く	行かない	分らない	計	単位
	21	1	16	38	人
	55.3	2.6	42.1	100	%

(3) 本研究に位置付けた学習活動

文献研究及び実態調査の結果を基に、本研究では、主権者教育の目的を達成することを念頭に置いて、前頁の「公共（仮称）」で育む資質・能力のうち特に 1 と 2 に示されている力を身に付けられるように以下のような学習活動を位置付けました。

- ① 学校所在地の自治体（以下、A 市と表記）の政治のうち、「観光」・「交通」・「教育」・「雇用」の中から興味があるテーマを選択し調査することで地域の問題点を把握する。
- ② 把握した地域の問題点を基に、A 市を活性化させるための政策を選択したテーマに沿って考え、学習用 P C を活用しながらまとめ、発表する。
- ③ A 市を活性化させるための政策についてグループで話し合いながら、最も効果的な政策とは何かを個人で判断し、投票する。
- ④ 集約した学級での意見を生徒代表が A 市の市長に対し直接報告する。その後、市長から頂いた意見を学級全体に伝え、政策の考え方について理解を深める。

(4) 授業実践

ア 指導と評価の計画（全 4 時間）

次程	学習活動	活用する資料等	評価の観点				評価規準
			関	思	技	知	
第一次 (1時間扱い)	単元の基軸となる問い：主権者としての在り方をどう考えるか？						
	問い：地方自治の特徴とは何だろうか？ ○地方自治に関する「団体自治」「住民自治」などの重要語句をワークシートに記入する。 ○直接請求に関する図を参考に住民の権利についてワークシートに記入する。	・地方公共団体の機構図 ・直接請求に関する図					● ◎地方自治に関する語句の意味について理解している。(ワークシート) ● ◎住民が直接地方自治に参加する制度があることを理解している。(ワークシート)
第二次 (1時間扱い)	問い：A市の問題は何だろうか？ ○A市の現状についての調査を基に問題点を捉え、考えた活性化のための政策をワークシートに記入する。 ○考えた政策についてのプレゼンテーション資料を学習用PCで作成する。	・A市の自治体の現状に関する資料	●			●	◎A市の現状について把握し、活性化するための政策を考えようとしている。(ワークシート) ◎必要な情報を収集し、考えた政策をまとめている。(学習用PC)
第三次 (1時間扱い) 本時	問い：A市を活性化させるための政策とは何だろうか？ ○A市を活性化させるための政策について、考えたことをグループ内で発表する。 ○グループでの意見を代表者が発表し、学級としてどの政策が最も効果的であるか投票する。	・生徒作成のプレゼンテーション資料 ・生徒作成のプレゼンテーション資料	●			●	◎考えた政策について根拠を基に表現している。(ワークシート、発言の内容) ◎他者との合意形成を図り、効果的な政策は何か判断している。(発言の内容)
第四次 (1時間扱い)	問い：授業を振り返って、地方の政治に対する考えがどのように変わったか？						
	○政治についての質問に答え、発表する。 ○教科書の「選挙権を大切に」の内容から一票を投じる大切さを読み取る。	・質問紙 ・年代別衆議院議員総選挙投票率の推移のグラフ	●				◎自分が住んでいる自治体の政治に主体的に参画する態度が求められていることに気付いている。(質問紙、発言の内容) ◎主権者として、責任を持って選挙権を行使することの大切さを自覚している。(質問紙、発言の内容)
課外	○学級の代表者が直接、A市の市長に自分たちで考えた政策を報告する。	・代表者が作成した報告書					

	学習活動	教師の指導・支援																							
展開② (20分)	3 グループ内で1つに絞った政策についてグループの代表者が学級全体に発表する。 4 聞く側は発表の内容をワークシートに記入する。 	◆グループの話し合いで出た内容についても言及するよう指導した。 学習用PCで作成した資料を電子黒板に投影した。 メモした内容は、投票する際の判断材料にする。 ◆各グループの発表ごとに内容が深まるよう助言を行った。 ②各話からの政策発表用 ③最も効果的と思われる政策の案に○をつけて、下の欄に理由を記入してください。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>案</th><th>政策案</th><th>理由等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①第一話</td> <td>A案 伝統工芸の振興</td> <td>よみがえらうと意識されているが、まだ観光客も増やしていない。</td> </tr> <tr> <td>B案 町おこしを促す</td> <td>伝統工芸が観光客を呼び寄せ、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②第二話</td> <td>C案 大規模な開発</td> <td>新しい産業が生まれ、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>D案 町おこしを促す</td> <td>観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③第三話</td> <td>E案 町おこしを促す</td> <td>観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>F案 町おこしを促す</td> <td>観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④第四話</td> <td>G案 町おこしを促す</td> <td>観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>H案 町おこしを促す</td> <td>観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。</td> </tr> </tbody> </table>	案	政策案	理由等	①第一話	A案 伝統工芸の振興	よみがえらうと意識されているが、まだ観光客も増やしていない。	B案 町おこしを促す	伝統工芸が観光客を呼び寄せ、町おこし効果が期待できる。	②第二話	C案 大規模な開発	新しい産業が生まれ、町おこし効果が期待できる。	D案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。	③第三話	E案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。	F案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。	④第四話	G案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。	H案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。
案	政策案	理由等																							
①第一話	A案 伝統工芸の振興	よみがえらうと意識されているが、まだ観光客も増やしていない。																							
	B案 町おこしを促す	伝統工芸が観光客を呼び寄せ、町おこし効果が期待できる。																							
②第二話	C案 大規模な開発	新しい産業が生まれ、町おこし効果が期待できる。																							
	D案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。																							
③第三話	E案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。																							
	F案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。																							
④第四話	G案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。																							
	H案 町おこしを促す	観光客が町おこしを促し、町おこし効果が期待できる。																							
まとめ (5分)	5 各グループの発表の内容を踏まえ、最も効果的と思う政策に学習用PCを活用して投票する。 	◆根拠が明確であるものを選ぶよう指導した。 「A市の活性化につながる政策はどれかな？」 政策を選ぶ際の視点 ○根拠が明確であるか。 ・現状を踏まえた政策か ・政策の問題点を考慮しているか ・将来的にも効果的な政策かなど ◆投票結果は次時に公表することを伝えた。 ◆本時は個人の考えをグループで共有し、グループの考えを学級で共有したが、次時は個人での振り返りを行うことを伝えた。 ●【思考・判断・表現】の評価・・・(ワークシート、発言の内容) ②(B)「おおむね満足できる」と評価される目安 自分の意見を発表し、他者と議論する中で最も効果的な政策を判断している。 ③(A)「十分満足できる」と評価される目安 (B)に加えて、政策を選ぶ際の視点を踏まえ根拠を明確にして判断している。 ④(C)「努力を要する」の場合の支援 自分の生活と関連付けて考えるよう促す。																							

ウ 授業後の取組

主権者教育で重要なことは「現実感」であると考えます。時間をかけて考えた政策を授業だけで完結させてしまうと生徒の主権者としての意欲が損なわれる可能性があるので、考えた政策を生徒代表がA市の市長に報告し、指導・助言をもらうことを計画し、実行しました（資料2、表2）。

表2 生徒が考えたA市を活性化させるための政策



資料2 市長への報告会の様子

	政策案	理由	留意点
〔観光〕	A 数多い人気のある店があったら・・・	・有名店の集客力で人が集まる。	・どこに誘致するか。 ・市がどのように関わるか。
	B 学生が泊まれる安い宿泊施設があったら・・・	・観光客の遠征時に利用できる。 ・市の施設利用の額の利便性が向上する。	・どこに建設するか。 ・予算、維持費 ・既存の施設との競合
〔交通〕	C 通学路に広い歩道があったら・・・	・交通事情に優しいようになった。 ・小さい子供や高齢者も安心して通学することができる。	・土地の問題 ・転居せざるを得ない住民に迷惑がかかる。
	D 新幹線が利用できる駅があったら・・・	・市活性化のためには交通の利便性が不可欠である。	・莫大な費用がかかる。
〔教育〕	E 無料で使用できる体育館があったら・・・	・部活動で利用できる。 ・スポーツを通じて交流できる。 ・災害時の避難所としての活用	・施設利用者のマナーの問題 ・費用がかかる。
	F 母親同士が交流したり、子どもを預けられる施設があったら・・・	・子育ての負担軽減 ・一人で留守番させる心配がなくなる。	・あらゆる世代が利用できるわけではない。
〔雇用〕	G 高速道路のインターチェンジがあったら・・・	・市に企業を誘致する際に交通網の整備は不可欠である。 ・郊外の地代も利用できる。	・土地と費用の問題 ・工場等関中の騒音問題
	H 食品工場があったら・・・	・雇用の面から、若者だけでなく、女性、高齢者、障害者などの雇用につながる。	・どこに誘致するか。 ・商品力がないと販売面で立ち回らなくなる。

資料2の写真は生徒代表2名が市長に対し、自分たちで考えた政策の報告を行っている様子です。市長は生徒が考えた8つの政策一つ一つについて、実現可能性を含めて回答されました。そして、「今日報告を受けた政策は、政策ではなく夢や希望という段階です。本当の政策とは限られた予算や人員のなかで、既存の施設や人材をどのように活用するか、と知恵を絞ることです」と述べられました。市長の指導・助言により、生徒は政治を身近に感じ、考え方も今後、更に現実的になっていくと思います。

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

A市を活性化させるための政策を考え、他者との合意形成を図る過程で必要な能力は、「思考力・判断力・表現力」や「コミュニケーション能力」等であると考えます。このような能力は生徒の社会に参画する態度を育成する上で欠かすことができません。

そこで、第四次の授業で第三次までの授業を振り返り、生徒自身の授業に対する意識や態度について調査しました。表3は事後調査の結果です。

表3 事後調査の結果

1 政策を考える際、資料の分析を行うなど真剣に取り組むことができましたか？	できた	どちらともいえない	できなかった	計	単位
	28 73.7	10 26.3	0 0	38 100	人 %
2 グループ協議の際、自分の意見を根拠を基に伝えることができましたか？	できた	どちらともいえない	できなかった	計	単位
	14 36.8	22 57.9	2 5.3	38 100	人 %
3 他の生徒の意見をしっかり聞くことができましたか？	できた	どちらともいえない	できなかった	計	単位
	29 76.3	8 21.1	1 2.6	38 100	人 %
4 他の生徒の発表の内容を正しく理解できましたか？	できた	どちらともいえない	できなかった	計	単位
	29 76.3	9 23.7	0 0	38 100	人 %
5 最も効果的と思う政策を選ぶ際、根拠を基に判断できましたか？	できた	どちらともいえない	できなかった	計	単位
	26 68.4	12 31.6	0 0	38 100	人 %

事後調査では、「政策を考える際、資料の分析を行うなど真剣に取り組むことができましたか？」という質問に対し 28 名 (73.6%) の生徒が「できた」と回答し、「できなかった」と答えた生徒はいませんでした。また、「他の生徒の発表の内容を正しく理解できましたか？」という質問には、29 名 (76.3%) の生徒が「できた」回答しています。さらに「最も効果的と思う政策を選ぶ際、根拠を基に判断できましたか？」という質問には、26 名 (68.4%) の生徒が「できた」と回答しています。このことから他者の意見に耳を傾けその内容を理解し、政策を選ぶ際の判断材料にしていることを読み取ることができます。一方で、「グループ協議の際、自分の意見を根拠を基に伝えることができましたか？」という質問には、「できた」と答えた生徒が半数に満たなかったことから、自分の意見を表現することが苦手な生徒が多いことが考えられます。市報や市のホームページ、家族や地域住民への聞き取りなどの調査の時間やプレゼンテーションのリハーサルを与えることができたなら結果は変わっていたかも知れません。

次に、生徒が 8 つの政策案（前頁表 2）の中から 1 つの政策を選んだ際の理由の例を示します。

抽出生徒 A

C 班	理由： 前日も歩行者との接触事故があったと話があったから。 事故が起きたらはどうすることもできない。おける前にはすけ帰をしておくべきだと 思う。特に朝は小学生、自転車、車の通行が多い。
-----	--

資料 3 抽出生徒 A の記述

抽出生徒 A は、C 班が発表した「通学路に広い歩道があったら・・・」を最も効果的な政策として選択しました。投票前に政策を選ぶ際の視点を生徒に示しましたが、「交通環境を改善し、安心して過ごせるようにすることが A 市の活性化につながる」という発表の内容と資料 3 の下線部にある記述から、既習内容を踏まえて現実社会の状況に応じた効果的な政策を判断していることが分かります。

このような生徒はまだ少数ではありますが、本実践で取り入れた手立てを継続していくことで、社会に参画しようとする態度の育成につながっていくと考えます。

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

本研究では、自分が住んでいる自治体の政治に興味がある（少しあるを含む）と答えた生徒が学級全体の 25% にも満たないという事前調査の結果を踏まえ、地方の政治に興味を持たせ、主体的に参画する力を養うことができ

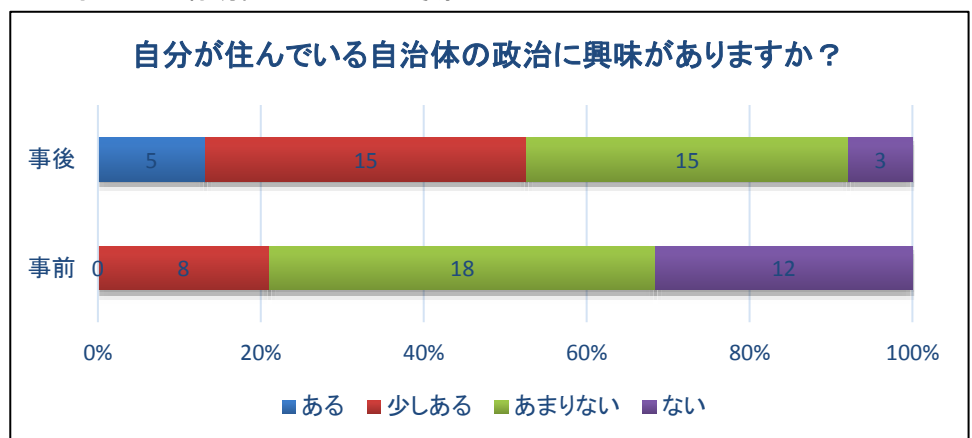


図 1

るような手立てを取りました。図 1 は、自分が住んでいる自治体の政治に対する授業前後の生徒の考え方の変容を表しています。事前と事後を比較すると「興味がある」と「少し興味がある」を合わせ

た生徒が 8 名 (21.0%) から 20 名 (52.6%) に増えました。

次に授業前後で考え方が変わった、また変わらなかった理由の例を示します (資料 4、資料 5)。

抽出生徒 B・・・「少し興味がある」⇒「興味がある」

4. 3で答えた番号の理由を書いてください。

今回の授業で学んでいくうちに、たんだん興味が出てきた。
自分の住んでいる所の政治はちゃんと分かっておくべきだと思った。

資料 4 抽出生徒 B の記述

抽出生徒 B は、事前調査の同項目で「自分が住んでいるところだから」という理由を記述していましたが、学びを進める中で、資料 4 の下線部にあるように、自分が住んでいる自治体への理解を深めることの重要性に気付くようになりました。

抽出生徒 C・・・「興味がない」⇒「興味がない」

4. 3で答えた番号の理由を書いてください。

政治には興味がないから。

資料 5 抽出生徒 C の記述

抽出生徒 C の事前調査での同項目は無記入で、授業後も資料 5 にあるように、自分が住んでいる自治体の政治に対して興味・関心を持たせることができませんでした。第一次の授業で、政治と自分の生活が密接に関係していることに気付かせる必要性を感じました。

次に選挙権の行使についての調査結果を示します (図 2)。

授業の前後を比較して「投票に行かない」と答えた生徒はいなくなりました。数字上大きな変化は見られませんが、授業の前後ともに「投票に行く」と答えた生徒の理由に変化が見られました。その変化の例を次に示します (次頁資料 6)。

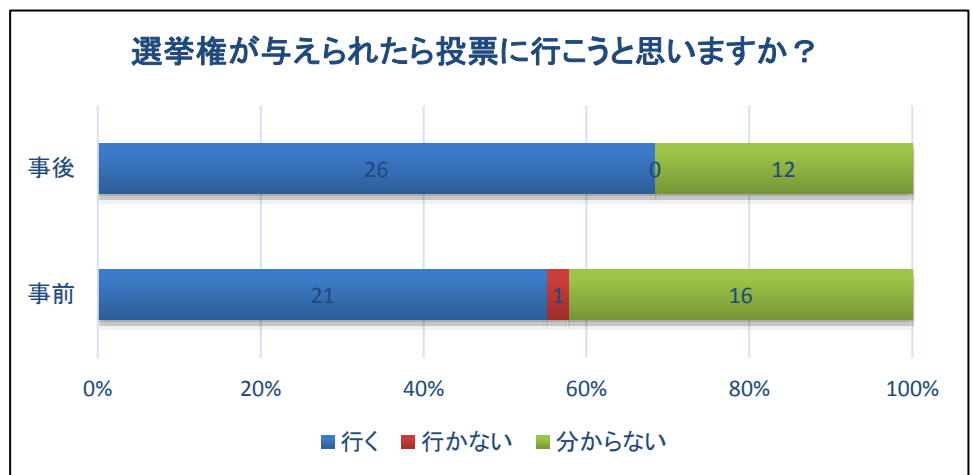


図 2

抽出生徒 D・・・「投票に行く」⇒「投票に行く」

行かないといけないから



一人の主権者として、行く権利があるから
住んでいる外に、その政治に参加しないと色々言う権利もないと思うから

資料 6 抽出生徒 D の記述

抽出生徒 D は、授業の前後で同項目に対し、いずれも「投票に行く」と答えていますが、その理由について、明確な目的がないまま義務的に行くという考えから、資料 6 の下線部のように、主権者として目的を持って政治に積極的に関わろうとする考えに変わったことが分かります。

今回の研究を行うに当たって重要視したことは、他人任せにせず主体的に政治に参画していく態度を養うことです。38 名全員の意識を変えることはできませんでしたが、資料 7 の下線部のように記述した生徒も見受けられ、本研究の目的に近づくことができたように思います。

8. 選挙権を行使する際に必要な考え方は何だと思いますか？

自分の一票が将来、自分の生活に影響するということ。

資料 7 抽出生徒 E の記述

《引用文献》

- (1) 文部科学省 「主権者教育の推進に関する検討チーム最終まとめ」 平成 28 年 6 月
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/1372381.htm
- (2) 日本学術会議 「提言『18歳を市民にー市民性の涵養をめざす高等学校公民科の改革ー』」
 平成28年 5 月 p. 19
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-15.html#9>
- (3) 文部科学省 『社会・地理歴史・公民ワーキンググループ取りまとめ（案）』 平成28年 8 月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/062/siryo/attach/1373841.htm